

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4471000291
法人名	医療法人 功尚会
事業所名	グループホームひばり
訪問調査日	平成19年 8月29日
評価確定日	平成19年 10月22日
評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4471000291
法人名	医療法人 功尚会
事業所名	グループホームひばり
所在地	杵築市大字南杵築字大手内1941番地1 (電話)0978-66-4188

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成19年8月29日	評価確定日	平成19年10月22日

## 【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人

## (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000	その他の経費(月額)	16,000	円
敷金	有 ( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,134 円			

## (4)利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0	名	要介護2	2	名	
要介護3	5	名	要介護4	2	名	
要介護5	0	名	要支援2	0	名	
年齢	平均	87 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	菅原内科 杵築 菅原内科 安岐
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 医療機関が母体のグループホームであり医療と連携した取り組みが見られ、家族や本人の安心が窺える。また、法人の代表者が各会議に出席して前向きな姿勢で取り組んでいる。
2. 職員はやさしく穏やかな対応で、理念を日常のケアに活かした実践が見られ、認知症高齢者のプロ意識が強く、積極的に研修や学習に参加している。研修で参考になったことを日頃の支援に反映している。
3. 家族は職員に任せきりでなく、面会時に意見や希望をホームに伝え・推進会議にも参加している。自宅訪問や食事などできる範囲で家族としての支援をしている。
4. 空間的にゆとりがあり、ゆったりとした時間が過ごせ、居室が自分の居場所と思えるような配慮をしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善点については、改善計画シートに基づき話し合い改善目標を決め、改善に向けた取り組みを具体的に検討し、評価を行い積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価ガイドブックで学習をして、職員で話し合い自己評価を行っている。自己評価をする中で地域密着の意義やケアについての気づきが見られる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1度開催している。市役所職員・家族・利用者・地域の代表者などが出席して各自が積極的に意見を述べる会である。特に地域の代表者から災害時の対応や職員体制などについて意見が出され、市担当者はアドバイスを行って地域を上げての取り組みが見られる。ホームとしては外部評価結果を出席者に配り質の向上に向け話し合いをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会があり自由に意見が出せている。面会が多く意見や不安を職員に言える関係ができています。また運営推進会議に家族が多数出席して意見を述べている。ホーム側としては、毎月家族に送る近況報告で希望や意見を出しやすくするための呼びかけを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 子どもたちの訪問、買物帰りの立ち寄り、野菜のおすそ分けなど地域の関わりがある。ホームからは地域の方を招いて交流会を開催している。今後自治会の一員として活動を進めることでもっと地域との連携が取れて行く事が期待される。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を作り、見やすい位置に掲示しているが、地域の中でその人らしく暮らすための理念は作られていない。	○	地域密着型サービスの理念について全職員で話し合い、地域の中でその人らしく生活することを支えるケアのための理念づくりが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員が良く理解をして日常のケアの基本として活かしている。また推進会議で提示して地域と共に支援に反映しようとしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の保育園と定期的な交流やボランティアの受入れ、ご近所の方が野菜を持って来てくれるなど日常的に関わりが行われている。また、ホームとしても交流会など計画して働きかけも見られる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を改善シートで検討し、職員間で共通認識をもち改善に向け実践している。また今回の自己評価についてもガイドブックを参考に職員で話し合い自己評価とともにサービスの見直しをしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・市職員・地域代表者が参加して積極的に意見を出し合っている。ホーム側より理念・外部評価・災害対応など提示して参加者は思いを伝え、職員体制・ケアなどについて地域から意見や質問が出ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員には運営推進会議に出席してもらい共に協議し、地域交流会への参加や協力などで協力が得られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ひばり通信で行事や全体的なお知らせをして、毎月利用者一人ひとりの近況を個別に記入し、金銭残高などと一緒に報告している。また、必要に応じて電話などで随時連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で積極的に意見を聴き、家族は面会時に忌憚のない意見を言い、それを職員は謙虚に受け止めケアに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に際しては、家族会などで話して引継ぎを行っている。利用者に対しても動揺のないよう説明をしている。法人内の異動は利用者が自由に行き来でき、馴染みの関係が保てている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者(ドクター)を中心に定期的に法人内研修や会議を開催し計画的に職員の育成を行っている。職員は認知症高齢者のケアを行うプロ意識が強く自ら外部研修会などに参加し、ケアの質を高めようとしている。初任者についてもガイドブックの活用などで段階に応じて実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで知り合ったグループホーム職員と話し合いや情報交換を行い、他事業者の見学も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族や本人がグループホーム見学に訪れ、職員は受け入れ前に必ず生活をしている家を訪問して、生活の状況を本人や家族から聞き、家の見取り図等を書き込み、馴染みの関係を作り不安を取り除いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は職員を頼り、自分から声をかけ触れて安らいだ表情である。職員は利用者を人生の先輩として接し、心の底を見つめ共に支えあって過し、利用者の優しさにやる気や癒しを貰っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を聴き、本人から聞けないことは家族に聞いたり本人の表情から察し、具体的に話し合っている。特に、家族から家庭生活の流れを維持するよう希望があった場合も対応した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見、本人の状態から課題についてスタッフ間で会議を開き意見を出し合い、介護計画に盛り込み日常のケアに活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族と面会ごとに話し合いモニタリングを基に、その時の状況や状態に応じて見直しをしている。特に問題となることについては改善のための計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療施設に併設しており、病状や体調の変化により随時医師が往診して、利用者や家族は安心とやすらぎを得ている。また、敷地内のデイサービスへ自由に出かけ友人と話を楽しく過ごしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人経営のホームであるが、本人や家族がそれまでのかかりつけ医の継続を希望すれば聞き入れ、かかりつけ医と連携して医療が受けられるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	すでに終末期の対応を経験しているが、医師・看護師・本人・家族・職員と方針や対応を話し合い全員で共有している。また段階に応じて家族の意見を尊重したケアを行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重したやさしい言葉かけで、トイレ誘導も周囲に聞こえないよう耳元で声かけをしている。接遇については勉強会やミーティングの中で学習して現場で活かしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の気持や体調を読み取り、希望に応じた過ごし方で対応し、ペースに沿ったゆったりとした支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。テーブル拭きやお絞りたたみなどできる事を行い、菜園で作った野菜をメニューに入れるなど食に対する意欲を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきであるが希望者は毎日でも入浴できる。入浴日以外は部分洗い・足浴・清拭と緩やかな対応をし失禁時トイレにシャワーがあり、さり気なく清潔が保てるよう整備している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からできることや楽しみながら、できそうなことを日々の生活に取り入れ、洗濯たたみ・シーツかけ・床掃除・新聞読みなどを発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣のスーパーへ敷地内から直接行け、日常の生活の中で買物と散歩と兼ねられるほど常態化している。同一法人のデイサービスに通っている友人と自由に会うこともでき、ドライブや自宅訪問・墓参りなど希望により外出をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出願望の強い利用者に対しては全職員で話し合い、見守り気配りで鍵をかけないケアに取り組んでいる。今後は行動パターンの把握により細やかな支援の取り組み予定がある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回(内1回は夜間訓練)も実施し、訓練時のデータを分析して、災害発生時の誘導方法やマニュアルに活かしている。訓練内容については、運営推進会議の議題として、日頃から近隣への協力呼びかけをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニュー会議があり医師・ヘルパーが集まり栄養や好み・季節に応じた食品・水分摂取などについて話し合いをしている。栄養士から栄養バランスや調理方法の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木の温もりが感じられゆとりのある空間で、畳のコーナーには掘り炬燵があり昼寝をしてくつろいでいる人もいます。新聞や雑誌も目に見える位置に置いている。猫のぬいぐるみがさり気なく置かれ、居心地良く過ごせるよう配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個性を大切にした居室づくりをし、家族の思いを大切にしている。テレビやイス・仏様・犬の置物など配置し、使い慣れた物や馴染みの物を用意している。洋服の好きな方は好みの服が見れ、選べるよう視覚的配慮をしている。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームひばり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	大分県杵築市大字南杵築1941-1
記入者名 (管理者)	真砂 千里
記入日	平成 19年 8月 10日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全体で確認し、ホーム独自の理念を作っている玄関・ホール等に掲示しており外部の方も分かる様にしている 地域の人との触れ合いも大切に、常に取り組んでいる	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや申し送り等で共有し、具体的ケアについても計画の統一化を図っている ミーティングや申し送り等で意見の統一化を常に図っている	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホール・玄関等に誰にでも分かるように掲示している 家族会や地域交流会等においても説明し、ホーム便り・地域新聞の活用もしている	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に近隣との挨拶を交わしたり、地域新聞や行事への呼びかけしている 実際遊びに来られたり、野菜をいただいたりもしている 作物(畑)等のおすそ分けをしている。今後も続け交流を図る	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園との交流を図り行来している 地域との交流会も図っている ボランティア活動もある	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実習生やボランティアを積極的に受け入れている 学習会の実施を行っている 地域の方々の認知症の相談等にも応じている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の目的や意義を職員に伝え自己評価等に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者より意見・要望などをあれば受け入れ取り組みに向け話し合いしている 実際に家族の意見を取り入れ、出来るだけ外出(ドライブ)等に出かけるよう努力している		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域交流会への参加や地域新聞「ひばり通信」の回覧等にも協力得られている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ミーティング等で話し合い学習する 必要な入居者において支援を促している 実際2名行う	○	学習会等を開き、職員への理解をもっと深めていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	学習会等に参加している 常に打ち身やアザなど入浴時・更衣時などがないか確認している	○	高齢者虐待防止関連法について学習する

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>家族との話し合いを十分行い理解・納得を図っている</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会・家族会議等で意見等があればお願いし、改善できるところと受け入れている</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の近況報告を発行し、状況や写真・金銭管理についても報告している 状態管理に関し必要であれば電話等での報告も行っている</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置や面会において随時意見を聞いている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフ会議等(ミーティング)で意見を聞く機会を設けている また反映させている</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>併設施設(すみれ館・病院)の応援や必要に応じ時間の調整等を行っている</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職等の場合も必要に応じ他施設より馴染みのスタッフの応援に来てもらう等の対応をしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をもうけ、順番に受けるよう努めている 事業所内でも定期的に学習の機会を設けている	○ 多くの研修に参加し、サービスの向上に努めたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所からの見学を受け入れている	○ 他事業者との交流をもっと図り、良い所を取り入れサービス向上に努めたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	食事会に行ったり、毎月のミーティングで意見の出し合いをしている(勤務希望を優先してくれ助かっている)	○ 楽しい職場になるようにしたい (スタッフ一人ひとりの意見を聞き、悩み等困っている事がないか把握していく)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得に向けた支援 研修への取り組み	○ 資格取得に向けた支援 研修への取り組み
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の意見を反映し受け止め、取り組みに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を聞いている 信頼関係に努めていく	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意見に基づき、他の事業所ケアマネと連携を図りながら対応している 本人・家族の希望に応じ対応している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に納得していただく為、説明だけでなく施設内の見学等をしていただき、不安の除去に努めている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えをスタッフが共有しており、常に勉強になる事が多い為、声かけ・対応に十分注意している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との思いを共有し本人と一緒に支えるよう支援している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に過ごす機会を作ったり、行事に誘ったり努力している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、近隣の方の面会を受け入れており、実際に面会に頻回に来てくれている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別ケアに取り組んだり、みんなで楽しくレクリエーションをしたり、中の良い人同士が過ごせる場所作り等に努めている 入居者同士の個性を把握しトラブルのないよう座る位置等工夫している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方に対しては手紙(賀状等)を出したりしている 実際に退去後も遊びに来たりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人にあった暮らし方の支援をしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時又は面会等により一人ひとりの状況において聞くように努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、把握するように努めている		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々のサービス計画を作成し取り組んでいる 3ヵ月毎のモニタリングも実施している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しを行っている 状況に応じては計画を作成している 3ヵ月毎モニタリングの見直しをしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録とし記入している 計画の見直しにもいかしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置等を受けながらの生活の継続 早期退院の支援 終末期の入院回避		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・ボランティア等意見交換する機会を設けている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーや事業所との連携を図っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターにも呼びかけし、取り組み内容報告も行っている	○	実際に支援センター職員の参加がない 働きがけを続けていきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により実際医療支援している(同意も得ている)	○	かかりつけ医との連携



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	専門病院への受診等
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	診察や来客者、その他のトイレ誘導等において対応や言動等について十分プライバシーを傷つけないよう気をつけている 常にプライバシーを損ねることのないよう対応に気をつけている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	食事・飲み物・レクレーション・入浴等において利用者の希望を聞いている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを把握している 入浴や昼寝等希望にそった支援も行っている 一人ひとりの生活パターンを把握する その日の状態を見ながら支援する	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容についても本人の希望の店を支援している 服や化粧品もその日の状況や好みにより支援している 一人ひとりの好みを大切にしている	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と同じ食事を食べ話の共有を図る 準備等では出来る事を手伝ってもらい一緒にする 菜園で採れた野菜を話しながら食べる(収穫も出来る人に手伝ってもらう) 出来る作業は一緒にとり組みながら行う 入居者の好物を多く取り入れる	○ 全体のバランス等を十分に考える
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、たばこはいいない 飲み物やおやつ等は本人の好みを取り入れ支援している	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表により一人ひとりを把握し支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入っている 無理はせずタイミング等を見て声かけしている 入浴剤やバラ湯、ゆず湯の支援もしている	○	希望の時間帯等も考えたい 現在、午後に皆さん入浴され特に夜間の希望はない
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活パターンを把握する 日中出来るだけレクリエーション又は外出(散歩)等を取り入れ、安眠につながるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴をいかした役割や楽しみを支援している	○	マンネリ化を防ぎ利用者が楽しんでもらえる支援をしたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で管理しているが、買い物時には本人に支払ってもらおう支援している 外出時(買い物)は自分で払っていただけるようお金を渡している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブ・買い物・散歩等本人の希望に応じ支援している 出来るだけ天気の良い日は戸外に出かけている 外出の機会を出来るだけ多くとる様にしている(家族の希望により)		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望や家族との小旅行等支援している(墓参り・地域ふれあい店・花見・ブドウ狩り等) 本人・家族の希望により出かける機会を作り、外出の支援をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いはもちろん、日常的にも手紙等の支援を行っている 本人の希望により電話・手紙の支援をしている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪ねて来ている 実際に毎日のように面会がある いつでも気軽に訪問できるようにしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のない支援に取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、実際に外に出た利用者がいた為玄関のみ鍵をしているが、ホール内などはオープンにしている	○	出来るだけ鍵をかけずに見守りをしていきたい 一緒に行動するよう気をつけている
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	更衣・トイレ等もプライバシーを守りながら常に見守り、状況の把握を行っている 更衣・トイレ・入浴等いつも気をつけている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて対応している 包丁・針・ハサミ等の保管はきちんとしているが、使用の際は後片付けまできちんと見守っている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止等についての取り組みをしている 事故等あった場合、報告書を作成とともに予防対策を検討したり安全対策会議等の取り組みもしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の勉強会を行っている 救急救命法等の実際の勉強会の取り組みもしている マニュアル作成等		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練、消火器の使い方等年2回実施している マニュアル作成等		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに応じたリスク(ベッド柵・転倒)について説明している 事故等が発生した場合においても対策について検討し、家族等の協力を得るため説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの状態に応じて観察を行い、変化のあった時もバイタルチェックを行い記録し、必要に応じ医療受診につなげ家族にも報告している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的・副作用・用量を理解し、正確に内服するよう確認し記録に残している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握し、食事や運動等にも気をつけている 水分補給・運動・牛乳・ヨーグルト等食事の工夫も行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じ、ケアの手伝いをしている(毎食後) 就寝時は水にひたし、2回/W洗浄剤を使用している 1回/M専門師によるケアも行っている 口腔ケアの重要性を理解し一人ひとりの力に応じたケアを行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し記録している 状態に応じて水量・おやつ等詳しくチェックしている 入居者の好みやカロリーに応じ対応している 必要に応じ、栄養士の指導も受けて勉強している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種やペーパータオル使用。また、肝炎入居者の感染対策等をしている 感染マニュアル作成し、予防・対策に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	フキン等はハイター消毒し調理用具は乾燥機を使用している 冷蔵庫の点検・掃除も毎日行い、麦茶等は日付を入れ早目の処理に気を付けている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花・プランター・花壇がある 入口には気軽に入ってもらえるよう張り紙をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けや家庭的雰囲気のある掲示等、五感を取り入れる工夫をしている 居室は一人ひとり違い、好きな動物の絵やカレンダー、写真等家庭の雰囲気に近い工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間やカウンター、ベランダ・ソファー・居室と好きな人同士で過ごせる工夫をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの状態に応じ写真や使い慣れた家具の持ち込みがあり、利用者が安心して過ごせるように工夫している テレビ・イス・テーブル・仏様等一人ひとりに合った物を使用している		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気している 温度計を見て調節している 冷暖房は利用者に合わせての温度にしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり・歩行器・車椅子・杖等一人ひとりの状態に応じて使用し自立への配慮をしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目の高さに合わせた張り紙や飾りを使用 一人ひとりの状態に合わせた環境に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	菜園もあるが、足の悪い方も楽しんでもらえるようテラスに家庭菜園(プランター)トマト、大葉、花等をした 周囲には果樹園等もあり、入居者が収穫の楽しみを持っている(うめ、みかん、さくらんぼ等)		

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 病院が近くにある
- ・ 地域交流がある
- ・ 家族が協力的
- ・ 環境が良い
- ・ 身体機能維持を図るため体操、歩行（散歩）訓練、レクリエーションを行っている
- ・ 菜園があり、季節の野菜や花と一緒に植えている
- ・ ボランティア活動に取り組んでいる
- ・ 出来るだけ入居者・家族の希望により外出（ドライブ）等の支援をしている